

# 翔

し ょう

平成二十九年

70

【岸田文雄季刊誌】



Fumio Kishida DETAILED REPORT MAGAZINE  
[自由民主党広島県第一選挙区支部]

## Contents

- 国際社会の中における日本の安定感
- G20ポン外相会合
- 地方の魅力発信プロジェクト
- 宏池会60周年



## ■宏池会60周年

現在、岸田文雄が会長を務めている政策集団「宏池会」は、今年で創設60周年を迎えました。初代会長の池田勇人総理をはじめ、大平正芳総理、鈴木善幸総理、宮澤喜一総理と4人の総理大臣を輩出した、自民党の中で最も古く、唯一名前が変わっていない最古参の派閥です。

また宏池会は、全然戦後の抑圧された社会を鑑み、言論の自由や表現の自由などといった自由に対する強い思いと、現実の問題に極めてリアルに冷静な認識と判断によって、保守本流として日本の政治の中核を成してきました。

その宏池会が今年で60周年を迎えました。今年はそれを記念し、様々なイベントや催しを企画しています。ぜひ多くの方にご協力を賜り、参加して頂ければ幸いです。



## 岸田文雄後援会事務所

〒730-0013 広島市中区八丁堀六一三 和光八丁堀ビル九階

### ●国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1  
衆議院第一議員会館1222号室  
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

### ●広島事務所

〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3  
和光八丁堀ビル9階  
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

### ●岸田文雄ホームページ

<http://www.kishida.gr.jp/>

ケータイ用サイトQRコード

## 岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、(株)日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後8期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長・建設政務次官・文部科学副大臣・衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23~24年にかけて野党自民党において国会対策委員長として指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

また24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年に発足した第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。現在の第三次安倍第二次改造内閣まで一貫して再任され、戦後外務大臣の在任期間歴代2位、専任の外相としては最長となっている。

## 岸田文雄フェイスブック

[www.facebook.com/kishidafumio](http://www.facebook.com/kishidafumio)

日々の活動写真を中心に更新しています



## ◆G20ボン外相会合(2月16・17日)

2月16日～17日、G20外相会合がボン(ドイツ)において開催されました。今回はG20メンバーに加え、招待国(スペイン、シンガポール、オランダ、ノルウェー、ベトナム(APEC議長国)、招待機関(国際連合(UN)、世界銀行、アフリカ連合委員会(AUC))が参加し、「国際秩序の形成一危機管理を超えた外交政策」のテーマの下に様々な議論が行われました。

また、併せて日米韓外相会合の他、様々な国と二国間外相会談を行いました。



## ◆外務省「地方の魅力発信プロジェクト」

岸田文雄外務大臣は、外務省において「地方の魅力発信プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトには様々な取り組みがありますが、例えば外務省の施設である飯倉公館において、各都道府県の特産品などのPRのイベントを開いたり、また岸田大臣自らが各国の駐日大使と共に地方を訪れて、その素晴らしさを共有し、地元の方々と対話を行い、地方の魅力を世界に発信するというイベントも開いています。



2017年は様々な変化の可能性を秘めた年です。現在、世界各地では、保護主義や内向きの傾向が強まり、法の支配に基づく国際秩序が挑戦にさらされています。こうした中、同盟国米国ではトランプ新大統領が就任し、八年ぶりに政権が交代しました。フランス・イラン・韓国では大統領選挙が行われ、ドイツ・オランダでは議会選挙が行われますし、中国でも五年に一度の共産党大会が開催される予定です。英国のEU離脱交渉も開始される予定です。このように国際社会において不透明感が増大しています。

その中で日本はこれまで四年間にわたり安定した政治外交を実現し、国際社会における存在感を高めきました。昨年はG7議長国として国際社会の議論をリードするなど、日本は世界の安定と繁栄を主導する国として多くの国から期待される存在です。

日本は、国際社会の安定勢力として、基本的価値を共有する国々と連携し、変化の可能性を秘めたこの一年を、日本の国益を増進させ、世界の平和と繁栄につながる一年となるように、国際社会をリードしていかなければなりません。

本年も引き続き、日米同盟の強化、近隣諸国との関係強化、日本経済の成長を後押しする経済外交の推進という三本柱を中心に、日本外交を力強く推し進めてまいります。

## 外務大臣 岸田文雄

### 日本の安定感

第一の柱は、日米同盟の強化です。

日米同盟が日本外交の基軸という方針は不变です。世界経済の原動力であるアジア太平洋地域の安定は日米両国共通の利益です。

昨年末、安倍総理の真珠湾訪問において日本と米国の和解の価値を国際社会に示しました。戦後七十年の日米協力の積み重ねに基づく日米同盟の強化こそが地域の平和と繁栄の鍵であるという認識のもと、トランプ新政権とも緊密な関係を構築しつつ、日米同盟を二層強化するとともに、地域及び世界の平和と繁栄に貢献していくかなければなりません。

第二の柱は、近隣諸国との関係強化です。

日中関係と日韓関係は共に最も重要な二国間関係の一つです。これらの国々に対しては様々な諸問題が山積していますが、日本として主張すべきことは主張し、幅広い分野においてさまざまなレベルで意思疎通を図り、相互の信頼のもと、両国の関係を未来志向の新時代へと発展させていくことが重要です。また拉致問題などもこれら近隣諸国と力を合わせて対応しなければならない問題です。同時に、北朝鮮の核問題やミサイル問題、地域の平和と安定を保つためにも、より一層の近隣諸国との連携が重要になってしまいます。

昨年十二月のブッシュ大統領の訪日は、平和条約の締結に向けた重要な歩となりました。今後も政治対話を積み重ねながら、日本

の国益に資するよう、日ロ関係をさらに発展させていきたいと考えています。自由貿易は世界経済成長の源泉であり、日本が先頭に立つてこれを牽引していくかなければなりません。企業の海外展開支援を在外公館と一緒にして支援し、質の高いインフラの輸出、訪日観光客、対外投資の拡大などを官民一体で精力的に進め、日本の競争力の一層の強化を目指していくきます。

TPPを初め、東アジア地域包括的経済連携、RCEP、各国とのFTAなど、様々な枠組みを活用し、これを強力に推進していく必要があると思います。

この三本柱を基本に今年も外交を勧めて参りますが、日本外交はこれだけではありません。例えば拡大するテロ・暴力的過激主義の問題、宇宙空間及びサイバー空間における法の支配の強化への対応、主要国並みの外交実施体制の確立の問題など、この他にも数多くの課題が日本と国際社会の前に山積しています。

中でも核軍縮・不拡散の問題は外務大臣として最も力をいれてきた分野です。この問題は一朝一夕で解決するものではありませんが、昨年五月のオバマ大統領の被爆地広島訪問は、核兵器のない世界に向けた国際的機運を再び盛り上げることに繋がったと確信しております。引き続き、核兵器のない世界の実現に向かって、唯一の戦争被爆国として、現実的か



これからも内外問わず様々な出来事があると思いますが、外交とはやはり国民の皆様のご理解を得ることこそが最も重要な点だと感じています。また昨年から地方の魅力の発信にも注力しているところです。世界へ日本の地方の魅力を発信し、私自身先頭に立つて取り組んでいるところです。これらも含めてぜひとも国民の皆様のご理解を賜りながら、今後も丁寧に理解を得ることこそが最も重要な点だと感じています。また昨年から地方の魅力の発信にも注力しているところです。世界へ日本の地方の魅力を発信し、私自身先頭に立つて取り組んでいます。

つ実践的な取り組みを重ね、軍縮・不拡散の国際的な取り組みをリードしていきます。